

故障と点検

取り付け後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

ホースナット

11. 十分に締め付けてあるか？

泡沫器

2. ゴミづまりはないか？

新品時はシールテープ、グリス等が付着している事があります。よく洗い流してください。

清掃方法についてはお客様用取扱説明書をご参照ください。

水漏れ防止パッキン

6. きちんと取り付けられているか？

現象	点検箇所
吐水量が少ない	1 . 2 . 7 . 8 1 2
水が止まらない	3
温度不良	1 . 3 . 7
レバーがガタつく	4 . 5
カウンター内に漏水する	6 . 8 . 9 . 1 1
ホースが引き出せない	1 0

おもり

10. きちんと取り付けられているか？

- ストレーナー（あり・なし）
1 2. ゴミづまりはないか？

- カートリッジ止ビス
5. 十分に締め付けてあるか？

- スクリューセット
4. きちんと取り付けられているか？

- カートリッジ
3. 破損・ゴミかみはないか？

- 袋ナット（カップリング）
9. 破損・ゆるみはないか？

- ホース
8. 破損・ねじれはないか？

- 逆止弁
7. 破損・ゴミかみはないか？

- 止水栓
1. 全開されているか？
圧力は十分か？

グローエジャパン株式会社

本 社 〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1 東京流通センタービル
TEL 03-3298-9683 FAX 03-3767-3811
大阪営業所 〒550-0014 大阪市西區北堀江1-5-2 四ツ橋新興産ビル
TEL 06-6533-3015 FAX 06-6533-3460

GROHEJAPAN ホームページ
<http://www.grohe.co.jp>

シングルレバーキッチン混合栓施工説明書

安全上の注意

施工前にこの「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠注意

湯水を逆に配管しないでください。

水を出そうとしても、湯が出てヤケドをすることがあります。

お客様に引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

寒冷地仕様ではありませんので、水抜きには工具を必要とします。

凍結破損で漏水し、家財を濡らす財産損害発生恐れがあります。

施工完了後は、配管接続部分及び水栓から、水漏れの無いこと、レバー、ハンドルが閉じていることを確認してください。

漏水で、家財を濡らす財産損害発生恐れがあります。

使用条件

● 給水、給湯圧力

貯湯式温水器（ボイラー、電気温水器）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(0.07Mpa〔0.7kgf/C m²〕)～(最高圧力 0.74Mpa〔7.5kgf/C m²〕)の範囲とします。

給水・給湯圧力はできるだけ同圧（最大3：1以内）になるようにしてください。

ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合

流動圧で最低必要圧力(A + 0.07Mpa〔0.7kgf/C m²〕)～(最高圧力 0.74Mpa〔7.5kgf/C m²〕)の範囲とします。給水・給湯圧力はできるだけ同圧（最大3：1以内）になるようにしてください。

Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

以上は下記の条件を想定して設定されて降ります。

レバー、ハンドルは全開です。

ガス給湯器との組合せ条件が最も悪い冬期条件（給水温度5℃、吐出温度40℃）によるものです。

給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。

ガス給湯器の温度調節は最高温度（60℃）設定です。

給水圧力が0.74Mpa〔7.5kgf/C m²〕を超える場合は、市販の減圧弁等で適正圧力に減圧してください。

- 水勢の調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓の設置をおすすめします。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。
- 水栓下部を点検出来るように必ず点検窓を設け、水受容器を設置してください。

施工前の注意

- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。
- 給水は上水道に接続してください。
温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 開梱、取り付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分に注意してください。
- 必ず配管中の異物（ゴミ、砂等）を完全に洗い流してください。
- 寒冷地仕様は不凍栓等を設置した寒冷地仕様配管設備でないとは使用できません。
- 配管接続部を隠さないでください。水切棚に取り付ける場合、必ず水受けを設けスラブへの防水を行ってください。
- 給水・給湯ホース緩み防止の為、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。
- 逆止弁（接続）アダプターの接続ねじは平行ねじ G1/2 です。テーパねじ（TP1/2, R1/2）には使用しないでください。また止水には付属のパッキンは必ず使用してください。

取り付け後の確認

レディラックスプラス、ゼドラトリガー（図 13 参照）

レバーハンドルを止水状態にしてください。
整流器のキャップを付属の工具、または 2.4 mm スパナを使用し、ゆるめてください。
整流器のゴミを取り除いてください。

ハンドスプレー内部に砂等が入ることもありますので、押さえ板、スプリングを抜き取り、切替ボタンを押しながら通水させ、内部のゴミを洗い流してください。このときスプリングの紛失に特に注意してください。

付属の工具 (01616031) または 2.4 mm スパナを使用して確実に締め付けてください。

図 13

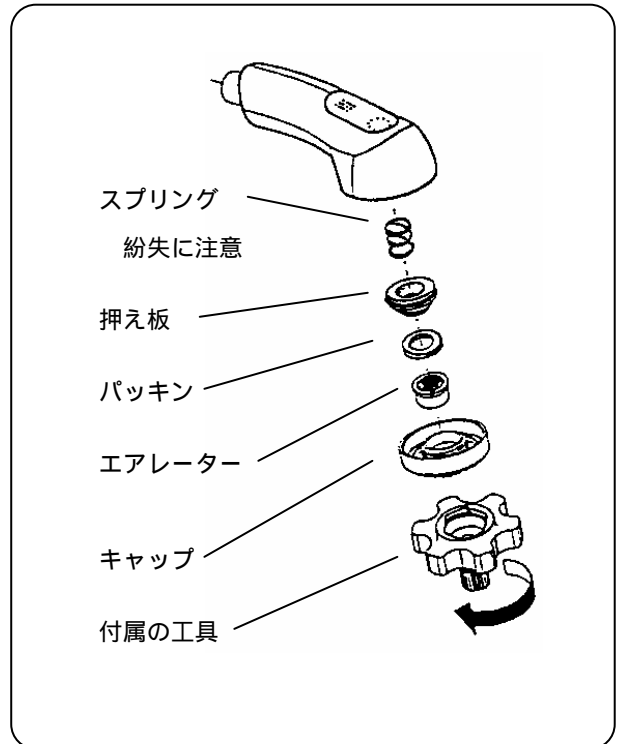


図 14

5. ストレーナの清掃（図 14 参照）

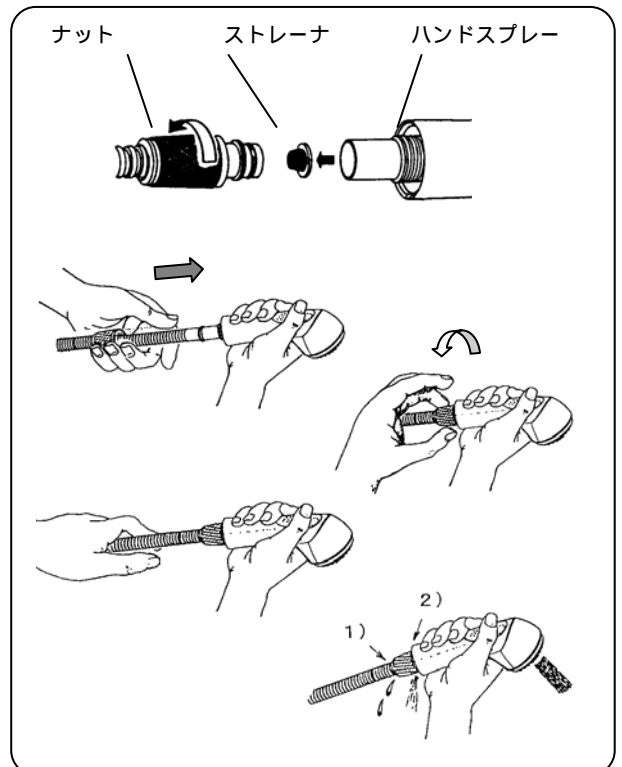
レバーハンドルを止水状態にしてください。
ホースナットを緩めてハンドスプレーを取り外す。
ハンドスプレーの中に挿入されたストレーナを取り出し清掃する。

ホースナットがホースの根元に最後まで入っていること。ホースがホース根元で遊びが無く完全に固定されていること。ハンドスプレーを引き出したまま、開閉レバーを開栓し、接続部分から水漏れが無いことを確認してください。

水漏れがあった場合、1)、2)にゆるみが無いか確認し、再度上記の通り組み立ててください。

ホースナットはハンドスプレーにしっかり確実に締め付けてください。接続部から水が漏れて、キャビネット内を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

3216800J には、ストレーナが付属しておりません。



取り付け後の確認

取り付け完了後、必ず下記の項目を確認してください。

1. 接続部の水漏れ（図9 参照）

吐水、止水を数回くりかえした後、図の箇所を点検してください。

- 止水栓とアダプターの接続部。
- アダプターと給水・湯給管の接続部。
- 給水・湯給管と本体の接続部。
- 本体とレバーの接続部。
- 袋ナットとホースの接続部。
- ホースとノズルの接続部。

特に、この部分は通水後漏水のない事を必ず確認し、万が一漏水が確認された場合パッキンを新品に取り替えた上、再度規定のトルクで締付を行ってください。

2. 水量・湯温の調節（図9 参照）

お使いいただく現場で、適量・適温が得られるよう、止水栓で調節してください。

湯水の流量を同程度にすると温度調節がしやすくなります。

図9

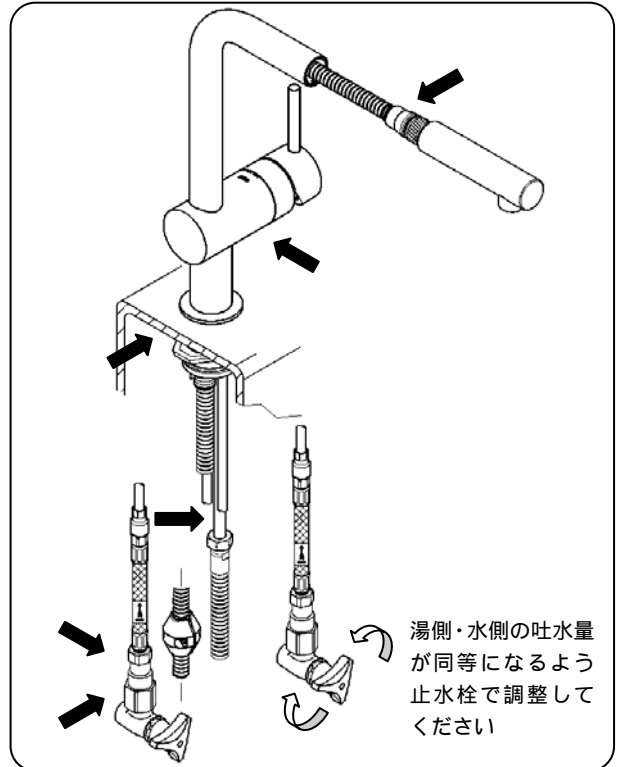


図10

3. ホース引き出しの操作確認（図10 参照）

お使いいただく現場で、快適な操作が得られるよう、確認してください。

ハンドスプレーを2～3回出し入れし、ねじれや、引っ掛かりがないことを確認してください。

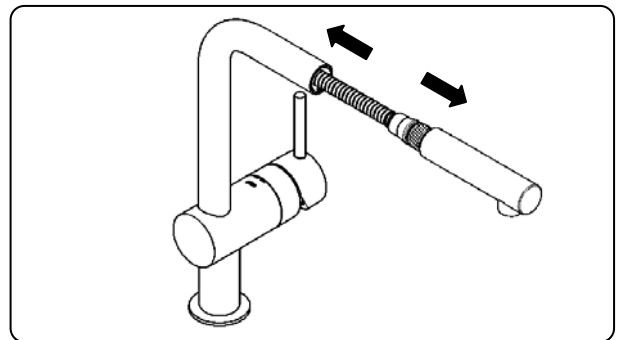


図11

4. エアレーターの清掃（図11 参照）

ゼドラ、ミンタ（図11 参照）

レバーハンドルを止水状態にしてください。
整流器（エアレーター）のキャップを手でゆるめてください。

3232100J、3232200Jは、工具を使用してゆるめてください。

整流器（エアレーター）のゴミを取り除いてください。

3232100J、3232200Jは工具を使用して確実に締め付けてください。

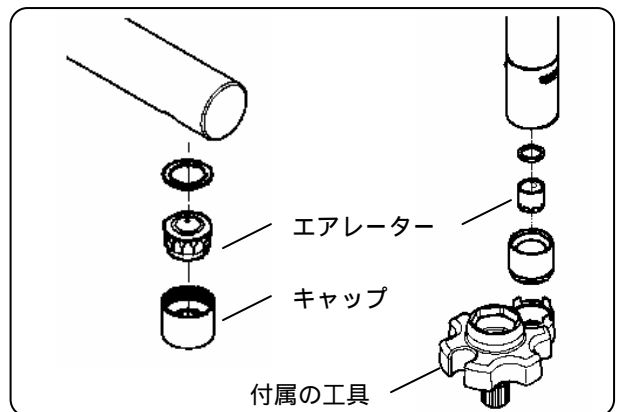


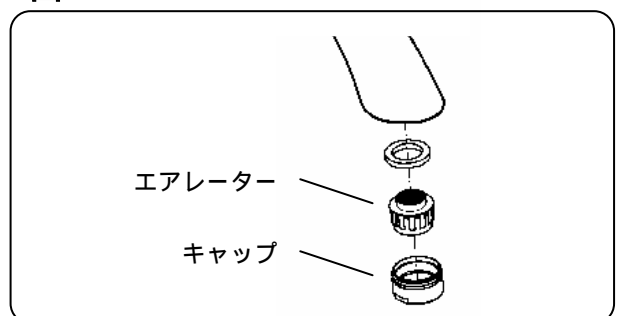
図12

ミンタ（図12 参照）

レバーハンドルを止水状態にしてください。
整流器（エアレーター）のキャップを2.2mmスパナを使用し、ゆるめてください。

整流器（エアレーター）のゴミを取り除いてください。

2.2mmスパナを使用して確実に締め付けてください。



施工手順

1. 本体の準備 (図1 参照)

本体付属部品を収納している小袋から、水漏れ防止用パッキンを取り出し、化粧プレートに取り付けてください。

本体をカウンター上部から取り付け穴に挿入します。給水・給湯ホースの袋ナットがカウンター穴にぶつかる場合は片側から入れるなど少しずらしながら挿入してください。

固定チューブを本体に差し込んでください。

壁面との距離が狭い場合は、図のように本体の設置方向を変えて取り付けることも可能です。

水漏れ防止用パッキンが取り付け穴に落ち込んでいないことを確認してください。又、取付穴が本体の中心にくるように挿入してください。

給水・給湯管、ホースがつぶれないよう注意してください。

2. 本体の固定 (図2 参照)

カウンターうらから三角形固定板、ゴム製平パッキンを挿入し、固定チューブを手で回し馬蹄形締付金具が少なくとも一回転以上ねじ込むようにしてください。付属の取付工具を固定チューブに差し込み、右回しに回してください。馬蹄形締付金具が上昇し、カウンターと本体とで挟み込み固定します。

本体を固定する際、取付穴が本体の中心にくるように取り付けてください。又、取付穴に給水・給湯管、ホースが接触していないことを確認してください。

三角固定板、ゴム製平パッキン、馬蹄形締付金具がきちんと重なっていること。又、水漏れ防止用パッキンが取り付け穴に落ち込んでいないことを確認してください。

本体が確実に固定されていることを確認してください。再度締め付けても動く場合は、ゴム製平パッキンは使用しないで締め付けてみてください。

取付穴が大きい場合(φ38~φ45)には別売のスポンジパッキンを使用してください。

固定には取付工具以外に21mm(または22mm)スパナでも締め付られます。また、取付工具は使用後にお客さまにお渡しください。

本体の固定の際は馬蹄形締付金具が給水・給湯管に無理な力が加わらないようにしてください。

図1

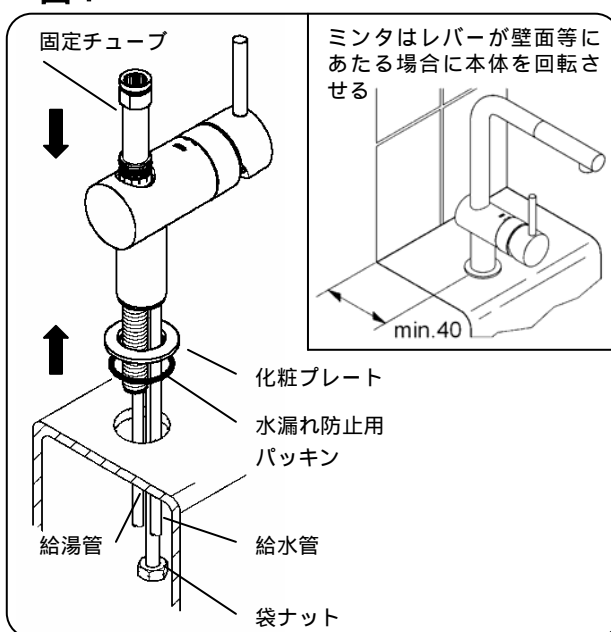
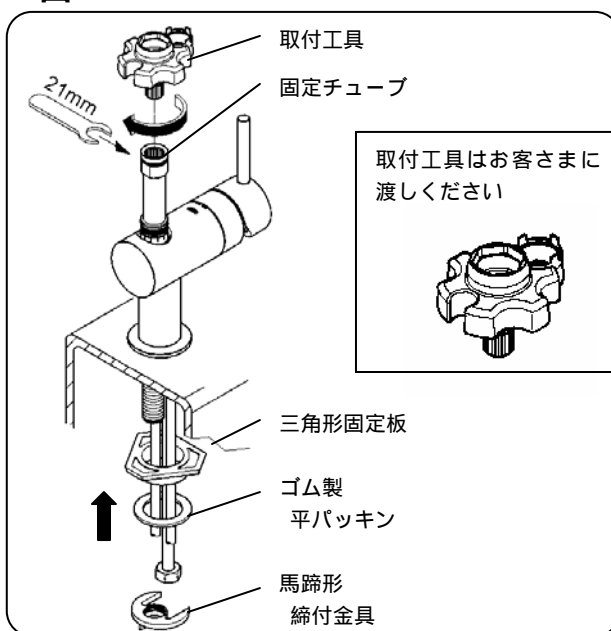


図2



3. 給水・給湯管の接続 (図3 参照)

同梱の逆止弁(寒冷地用はアダプター)を止水栓にネジ込み確実に固定してください。

締付は、200~300kgf・cmのトルクで行ってください。初期の締付が弱いと漏水の原因になります。

給水・給湯管を逆止弁に接続してください。

給水・給湯管がねじれないように配管ください。

管がねじれて接続されますと、加圧した際に給水・給湯管のナットが緩み漏水の原因になります。

給水・給湯管が折れないように注意してください。

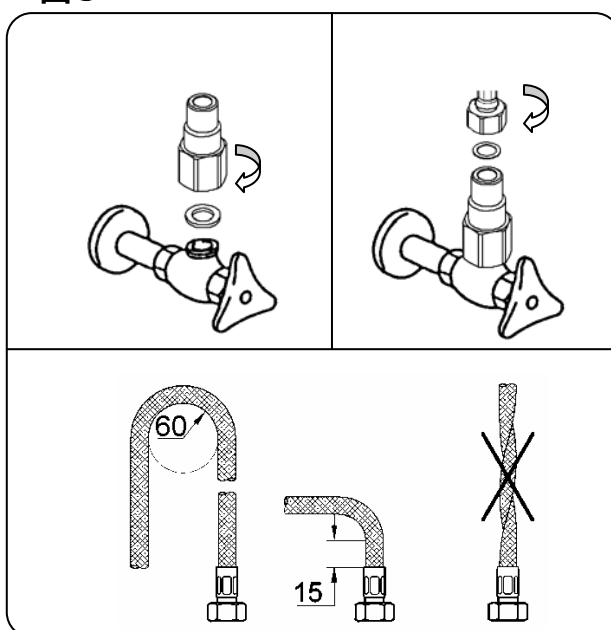
管を曲げ半径(60mm)よりも小さく曲げて使用しますと、管の内部が折れることがあります。施工時には、最小曲げ半径(60mm)よりも小さく曲げないように、ご注意ください。

水栓本体端面から極端に給水・給湯管を屈曲して、施工しないでください。

管同士の不要な接触は避けてください。

外部補強層の磨耗による外傷で性能の劣化の可能性があります。

図3



4. 本体とホースの接続 (図4 参照)

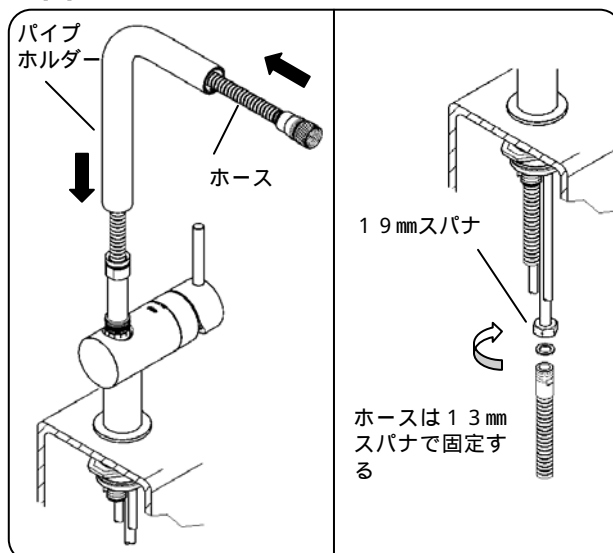
パイプホルダーの直線部分が短い方の穴にホースのネジ部側を挿入します。

固定チューブの穴にホースを入れて、シャンク部分にパイプホルダーを差し込みます。

13mmスパナでホースネジ部を固定し、本体ホース接続部の袋ナットに付属のパッキンを使用して、19mmスパナで締め付けてください。

袋ナットを締め付ける際は、ホースがねじれないよう注意してください。

図4



カップリングの場合 (図5 参照)

パイプホルダーの直線部分が短い方の穴にホースのネジ部側を挿入します。

固定チューブの穴にホースを入れて、シャンク部分にパイプホルダーを差し込みます。

ホースを13mmスパナで固定し、ホースにカップリングを19mmスパナでねじ込んでください。

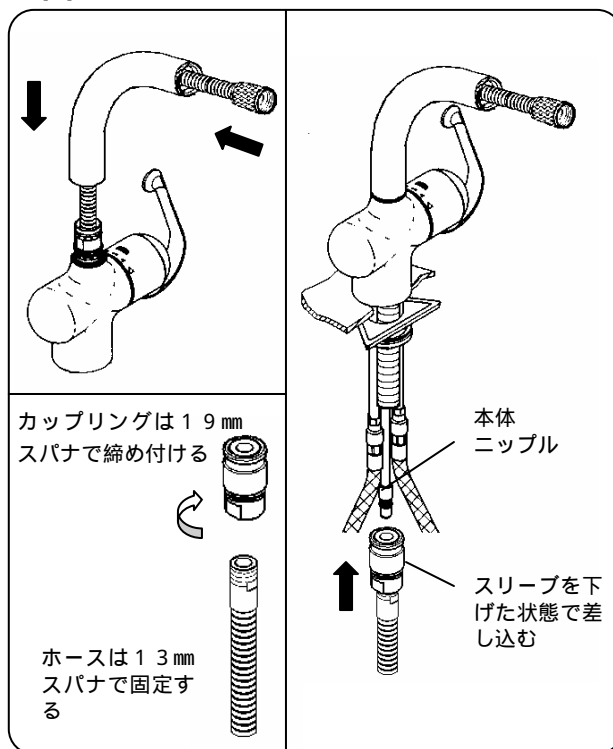
本体ニップル先端にカップリングのスリーブを手で下げながら差し込んでください。

カップリング、ホースの締め付けは必ず二面幅(工具使用面)を利用してください。無理に締め付けますとキズが入り、家財を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

カップリングを差し込む際は、ホースのねじれ、よじれを直し、自然な状態にしてから差し込んでください。

カップリングは『カチッ』と音がしてロックするまで差し込んでください。

図5



5. ホース逆止弁の取り付け

寒冷地用 (図6 参照)

寒冷地用の場合はホース側に逆止弁を取り付けるようになっております。

ホースを13mmスパナで固定し、水抜栓を工具等で取り付けてください。

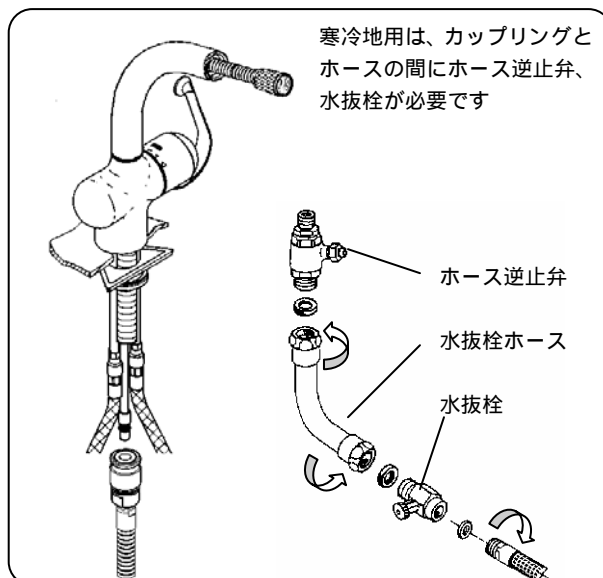
水抜栓に付属のパッキンを使用して、水抜栓ホースの袋ナットを工具等で締め付けます。

ホース逆止弁に付属のパッキンを使用して、水抜栓ホースのもう一方の袋ナットを工具等で締め付けます。ホース逆止弁にカップリングを19mmスパナでねじ込んでください。

パッキンを確認し、必要以上の締め付けトルクは加重しないでください。

水抜栓ホースを締め付ける際は、ホースがねじれないよう注意してください。

図6



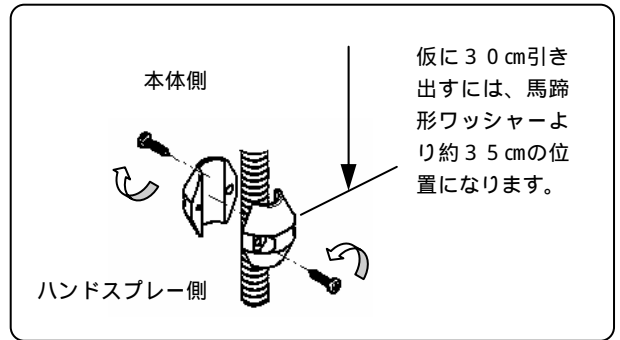
6. おもりの取り付け (図7参照)

おもりは、ハンドスプレーの納まりをよくするためと、引き出したときのストッパーの役目をします。ホースにおもりをはさみ、両側よりビスでねじ込み固定してください。

ホースの引き出し寸法は、お使いのチッキンシンクに合わせて調整してください。

ハンドスプレーをいっぱい引き出した状態で、ホースにゆとりがないときはおもりの位置をずらしてください。

図7



7. ハンドスプレーの取り付け (図8参照)

同梱の梱包箱からハンドスプレーを取り出し、接続部の穴にストレーナが挿入されていることを確認してください。

ホース先端のOリングがハンドスプレーにきちんと入るまで差し込んでください。

ホースナットを手で右に回し、完全に止まるまで締め付けてください。

ホースナットがホースの根元に最後まで入っていること。ホースがホース根元で遊びが無く完全に固定されていること。ハンドスプレーを引き出したまま、開閉レバーを開栓し、接続部分から水漏れが無いことを確認してください。

水漏れがあった場合、1)、2)にゆるみがないか確認し、再度上記の通り組み立ててください。

ホースナットはハンドスプレーにしっかり確実に締め付けてください。接続部から水が漏れて、キャビネット内を濡らす財産損害発生のおそれがあります。

3216800J、3232100J、3232200Jには、ストレーナが付属しておりません。

図8

